

氏曰、昔年於長崎聞彼土人之言曰、予嘗屢爲海賈、遊于西蕃諸國、凡中華及諸夷之米穀、其味皆淡薄、不及于日本所產之甘美、故其所釀之酒、亦氣味不及于日本、然則以日本之秬米暨良醞、可爲天下第一云、今按するに、天工開物に、南方酒皆糯米所爲と見え、稻記に、稻謂之大師古、粳謂之小師古、醞謂之紅絲米、釀酒宜用大師古、造粉宜用小師古と見えたり、稻はもち、粳はうる、秬は大たう也、陶淵明も酒のために稻を多く種たり、されば西土の秬米、酒を釀するに堪ざるをもて、粳を用る也、我邦粳のみ勝れたるに非ず、稻の宜き事も、後漢書に見えたり、蝦夷は粟を用う、蝦夷國の産物也。

〔倭名類聚抄十三祭神〕神酒 日本紀私記云、神酒和語云美和

〔伊呂波字類抄見〕神酒祭具

〔圓珠庵雜記〕さけをみきといふ世には神に奉るをのみみきといふとおもへり、それをば和名に神酒と書きてみわといへり、

〔冠辭考頭注二〕瀨積の瀨は眞と通ひて、ほむることば、枳は酒の古語也、さて神にも天皇にも獻るを、大御酒といふは、常の事なるを、みきとは三寸と書など様の僞説多し、

〔古事記仲哀〕御子中略、於是還上坐時、其御祖息長帶日賣命、釀待酒以獻爾、其御祖御歌曰、許能美岐波、和賀美岐那良受、久志能加美、登許余邇伊麻須、伊波多多須、須久那美迦微能加牟、苦岐本岐玖流本斯、登余本岐、本岐母登本斯、麻都理許斯、美岐叙阿佐受、勢佐如此歌而獻、大御酒爾建内宿禰命爲御子答歌曰、許能美岐袁迦美、祁牟比登波、曾能都豆美、宇須邇多氏、宇多比都都迦美、祁禮加母、麻比都都迦美、祁禮加母、許能美岐能美岐能、阿夜邇宇多陀怒斯、佐佐此者酒樂之歌也、

〔古事記傳三十一〕久志能加美は、酒之上なり、そは横井千秋云、久志は酒の本名にて、應神天皇の大御歌に、須々許理賀、迦美斯美岐邇、和禮惠比邇、祁理許登那具志、惠具志爾、和禮惠比邇、祁理とある、二ツの具志これなり、こは上より連ける言、さて御酒白酒黒酒など云、伎は、此久志の約まれある故に、具と濁れり、